

## 事後評価シート

調査研究課題名	多様な地域公共交通サービスの導入状況に関する調査研究
担当者	主任研究官 竹内龍介、主任研究官 岩元崇宏、前研究官 高久真以子、前研究官 中村卓央、前研究官 尾崎光政
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究では、既往の地域公共交通に関するマニュアル及び手引き並びに特色のある導入事例をもとに、事業者や住民等といった地域公共交通に係る主体との合意形成や、導入する交通システムの選定に当たっての考え方、導入後に見直しを行う際のポイント等、行政の職員が現場で直面する課題へ対処する上で想定される論点を抽出するとともに、既に地域公共交通としてデマンド交通及びコミュニティバスの導入を行っている自治体に対してアンケート調査を実施し、全国の市区町村での取組状況を取りまとめた。</p> <p>アンケート結果をもとに、デマンド交通とコミュニティバスを比較し、住民の移動目的、検討した運行形態、決定理由等の中で、取組の割合に差がある個別事項を抽出した。また、効果発現した路線と効果が不明の路線について比較し、運行形態の決定理由、需要予測、運行計画の検討、試験運行の実施、目標設定、モニタリング等の中で、取組の割合に差がある個別事項を抽出した。</p> <p>このような分析においては、多くの地方自治体で行う運行形態の選択や現行の運行形態の見直しにおいて、取組方法を選択するに当たって判断の基準や、適切な改善方策の裏付けとなり、地域公共交通の改善に資するものと考えられる。したがって、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究では、全国の市区町村に対して、デマンド交通やコミュニティバスの導入時における検討の取組等について、アンケート及びヒアリング調査を実施した。その結果、運輸局等の国や地方自治体における地域公共交通に関する既往のマニュアル・手引き類等で示されている項目を踏まえて実施した方が効果のあることを確認した。</p> <p>デマンド交通及びコミュニティバスについて比較すると、導入地区の人口規模等の地域特性及び、導入や運行に掛かる費用が異なるとともに、運行形態の決定理由について、デマンド交通では費用に関する項目、コミュニティバスは路線やダイヤの分かりやすさを理由とする場合が多いといったことが確認できた。また、利用者見通しの実施、実証運行の実施及びモニタリングという取組を行った路線では行っていない路線に比べ効果が発現している場合が多いことが確認できた。これら成果は、地方自治体が地域公共交通を改善していくにあたって、有効な情報を提供し得るものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進めるに当たり、コミュニティバスやデマンド交通等の地域公共交通の知見を有する学識経験者及び公共交通マイスターの方々に有識者として就任いただき、随時学識者ヒアリングを実施し、様々な角度からご助言をいただいた。また、本調査研究は、総合政策局公共交通部門との連携の下に実施した。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。また、本調査研究の結果が、地方自治体をはじめとした運営主体に対し、個々の地域の実情に応じた交通サービスの展開に活用されることが期待される。</p>
⑤ その他	<p>当研究所が主催する研究発表会において成果の一部について報告した。</p>